

(2) CJPF 事業における調査、実装、運営・評価に関する業務

- ① 2033 年に向け内閣府が設定したKGI/KPI に関する実証調査
- ② CJPF 活性化調査
- ③ CJPF モデル事例等各種プロジェクトの運営と評価項目の実装
- ④ 外国人材の活躍調査
- ⑤ その他CJPF 事業の発信・運営

令和7年度CJPF LAB 実施方針

- CJPFのエグゼクティブディレクター、ディレクター、構成員、CJプロデューサー、CJに関心のある自治体や民間事業者などを集め、業界連携やナレッジの共有のために、コミュニケーションを創出することも含めた場として設計
- クールジャパン戦略の担い手・関係者の関心度が高いテーマと登壇者を設定し、CJPF LABという形式で開催することで連携・共創のきっかけづくりとする
- ゴール・運営方法については以下の通り。

ゴール	目指す姿	➤ クールジャパン戦略促進のため、CJPF内外から人を集め、業界連携や新たな取組のきっかけとなる場を創出すること
	定量	➤ 年度内の開催回数（6回）、合計300名以上の参加者数、アンケートによる満足度80%以上、参加者同士のコラボレーション案件数の増加
	定性	➤ CJ関心者の増加、CJPFの認知獲得、CJPF参画企業・団体の増加、新たなアイデアや業界課題の発見
運営方法	人数	➤ 平均50名程度 ※テーマごとに異なる
	参加者	➤ CJPF関係者、CJ関心のある自治体・事業者等
	回数	➤ 年6回
	時間	➤ 2時間から2時間半
	形式	➤ 会場とオンラインのハイブリッド、前半に登壇形式、終了後に約1時間のネットワーキング時間を設けることで参加者間連携を促進
	内容	➤ クールジャパン×業界やトピックとして開催し、専門性をもつ登壇者が登壇、事例や課題感の共有のほか、質疑応答で参加者からの相談や質問にも応える

CJPF LAB 総評

● 満足度

総じて高い満足度を得られ、特に会場満足度は5点満点中4.5以上のみと高水準。

一方オンラインは主に会場設備との音声トラブルや投影とカメラの切り替え等、設備面での不具合を理由に

低評価の回が発生。会場は高い評価や新鮮さを得られた一方で、配信時の機材トラブルリスクがある点は留意。

● アンケート

登壇者や登壇企業・業界の海外展開に関する取組はいずれも高評価で、登壇者および参加者同士の交流会は

毎回有意義であることの回答が多数あり、横の連携創出の機会になった。参加者からの個別ではあるが、

LABを通じて複数社とこれまでMTGをし、議論を進めている先もあると共有をうけており、次年度においては

過去のLABやCJPFの取組で機会創出があったかについてもアンケート回収することで、成果の可視化を推奨する。

● 運営上のアップデート

会場はある程度固定の箇所がありつつ、一部その他会場というバランスが情報発信や円滑な運営の観点で望ま

しい。配信は専門的な知見を有する者を固定でつけ、会場ごとに十分なりハーサルを実施することで改善可能。

集客観点で、外部のイベントとの連携開催を一部企画することもありリーチや認知を拡げる効果が期待できる。

	開催日	トピック	参加数	総合満足度 (5点満点)	参加率	会場参加	会場満足度 (5点満点)	オンライン視聴	オンライン満足度 (5点満点)	アンケート回答率
第1回	9月24日	テック	87	4.4	55.8%	23	5.0	64	4.0	20.7%
第2回	10月10日	スポーツ	61	4.6	78.2%	31	4.8	30	4.3	13.1%
第3回	12月19日	コンテンツ	183	4.3	55.8%	40	4.5	143	4.1	44.8%
第4回	2月12日	ファッション・ビューティ	53	4.3	61.6%	21	4.9	32	3.5	34.0%
第5回	2月19日	外国人材	54	4.5	54.0%	20	4.6	34	4.4	38.9%
第6回	3月3日	金融・地域	49	4.5	67.1%	20	5.0	29	4.3	12.2%

CJPF LAB

第1回CJPF LAB「テクノロジーから考えるナイトタイム・クールジャパンの可能性」



The poster features a dark blue background with a network of white lines and dots. At the top left is the CJPF LAB logo, consisting of a purple hexagon with a white 'P' and the text 'CJPF LAB' in white. To the right of the logo is the event title in large white and yellow text. Below the title is the date and time. On the right side, there is a QR code and the venue information. Three men are featured in the center: a man in a white shirt on the left, a man in a dark suit in the middle, and a man in a grey jacket on the right. Below them are two images of night-time light installations. At the bottom right, the CJPF logo is displayed with its full name in Japanese.

CJPF LAB テクノロジーから考える
ナイトタイム・クールジャパンの可能性

9/24 (水) 15:45-17:30

全国市長会館 / オンライン

株式会社ネイキッド
執行役員 / プロデュース部門統括
久保 哲 矢

株式会社レッドクリフ
代表取締役
佐々木 孔明

ファシリテーター
CJPF ディレクター
クールジャパン・プロデューサー
渡 邊 賢 一

CJPF クールジャパン
官民連携プラットフォーム

CJPF LAB

セッション概要

本勉強会では、地域資源の新たな活用による観光コンテンツ創出の可能性について議論が行われた。

佐々木氏からは、これまで十分に活用されてこなかった「空」という地域資源を、ドローンショーによって新たな観光コンテンツへと転化できる可能性が示され、空間活用に関する新たな視点が提示された。また、久保氏からは、神社仏閣などの文化遺産に光を当てることで夜間における新たな価値創出が可能であること、さらに、その際には当該地域の歴史や文化的背景を尊重しつつ、現代の技術を用いて表現することが重要であるとの考えが示された。

これらの議論を踏まえ、城や寺院等における昼夜を通じた観光活用、いわゆる「観光の二毛作」の可能性や、湖・海・寺社仏閣の上空といった遊休資産を「空演権」という考え方で捉え、マネタイズにつなげている実例、ならびに今後の展開可能性について意見交換が行われた。

さらにディスカッションでは、単発的なイベントにとどめず継続的な取組へと発展させていくためには、行政・民間企業・表現者の三者が連携することが重要であるとの認識が共有されたほか、企業協賛やふるさと納税、夜間営業などを組み合わせた多角的なマネタイズモデルの必要性、地域住民との協働による持続可能な観光コンテンツ創出の重要性などについて、幅広い視点から質疑・議論が行われた。

アンケート結果

- 地域の魅力のわかりやすい魅せ方、まだ価値化されていないものを価値化していくという点でクリエイティブが重要であると感じました。
- 考え方、物の見方が参考になりました。
- ナイトタイムエコノミーの活性化のために、ドローンショーやプロジェクションマッピングは私にとって新しい視点となりました。スノーリゾートツーリズムにおいても検討してみたいと思います。
など、今後活用できる視点を得られたといった回答をいただきました。

CJPF LAB

参加・申込数

	申込数	参加数	参加率
会場参加	38	23	60.5%
オンライン	118	64	54.2%
合計	156	87	55.8%

満足度調査結果 (5段階)

総合評価

4.4

現地参加

5.0

オンライン

4.0

CJPF LAB

各種発信

PR Times ニュースリリース

「デジタルで拓く、地域のチカラ～NFT・ドローン・イマーシブが実現する、地域での新たな観光体験～」を開催します！

内閣府知財戦略推進事務局 2025年9月9日 13時30分

内閣府知財戦略推進事務局では、「新たなクールジャパン戦略（令和6年6月4日知内府発第本第22号）」に基づき、日本の魅力を世界に発信し、海外からの日本の魅力の体験やインバウンドの拡大、日本ファンの拡大に向けた取組を推進しています。

訪日外国人旅行消費額が過去最高を更新するなか、日本の各地域では高い体験価値を提供して取組を続けることで再投資を促すための持続的な取組をしていく必要があります。それを実現する方法のひとつにデジタルを旨む新たな技術の活用があげられます。

このため、内閣府では、新たな技術を活用し、地域資源の体験価値化・高付加価値化の取組拡大に向けて、2025年9月24日(水)、「デジタルで拓く、地域のチカラ～NFT・ドローン・イマーシブが実現する、地域での新たな観光体験～」(主催：内閣府/運営：株式会社野村総合研究所、Vpon JAPAN株式会社)を開催します。

「デジタルで拓く、地域のチカラ～NFT・ドローン・イマーシブが実現する、地域での新たな観光体験～」を開催

Vpon JAPAN株式会社 2025年9月9日 17時28分



CJPF LAB

内閣府クールジャパン官民連携プラットフォーム事務局（事務局：Vpon JAPAN株式会社、本社：東京都渋谷区、代表取締役グループCEO：渡辺 好孝）では、新たな技術を活用し、地域資源の体験価値化・高付加価値化の取組拡大に向けて、2025年9月24日(水)、「デジタルで拓く、地域のチカラ～NFT・ドローン・イマーシブが実現する、地域での新たな観光体験～」(主催：内閣府/運営：株式会社

登壇社発信



SNS



CJPF LAB

第1回 CJPF LAB 開催概要

第1回

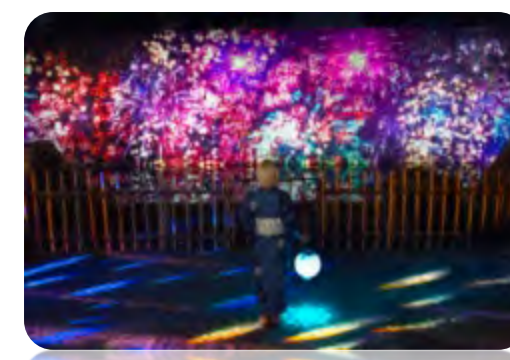
日時：9月24日（水）15:00-17:00（Labパート時間）
NRI/NFTの知財局成果報告会と同日
 トピック：クールジャパン×テクノロジー
 （地域連携・地域創生/ドローン空中・空演権/ナイトタイムエコノミー）

登壇：
 レッドクリフ代表取締役 佐々木 孔明
 NAKED執行役員/プロデュース部門統括 久保 哲矢

司会進行：渡邊 賢一（CJPFディレクター）

タイムスケジュール

時間	コンテンツ	登壇者	内容
5分	挨拶	内閣府	・挨拶 ・CJや知財計画について ・CJPF LABの位置づけ
5分	紹介	渡邊賢一	・登壇者紹介 ・Lab参加者へのメッセージ等
50分	講演	登壇者	・事例紹介 ・課題や可能性
10分	クロージング	渡邊賢一 事務局	・本日のまとめ ・事務局よりアナウンス・写真撮影
10分	休憩		
30分	交流	参加者全員	・登壇者も交えた交流時間



CJPF LAB

第1回CJPF LAB 開催の様子・開催レポート



「ドローンショーとプロジェクションマッピング」という2つの先端技術を活用し、地方創生の取り組みについて、それぞれの分野のトップリーダーから独自の視点から意見を述べ、議論していきます。

登壇者・講演内容

株式会社レッドディフ 代表取締役社長 田中 浩二氏

まず最初に、両社のプロジェクションマッピング技術の活用が「空のタイム（アイトタイム）」と題して講演を行いました。

レッドディフは、地方創生の推進にドローンショーとプロジェクションマッピングを活用し、地方創生の取り組みについて、それぞれの分野のトップリーダーから独自の視点から意見を述べ、議論していきます。



株式会社レッドディフ 執行役員/プロデュース部門部長 佐藤 浩二氏

続いて、株式会社レッドディフ 執行役員/プロデュース部門部長 佐藤浩二氏が「空から見たクールジャパンの可能性」と題して講演を行いました。

佐藤氏は、空撮での「メイトードガーデンラン」プロジェクトを中心に、2013年から継続している二重塔でのライトアップ事業を詳しく紹介し、空撮の活用が地方創生の推進に大きく貢献していることを強調しました。

記事検索

キーワード・タグの検索

検索結果の表示と絞り込み機能

よく見られている記事

グローバル市場における日本ブランドの競争力向上

地方創生と観光産業の連携

地方創生と観光産業の連携

地方創生と観光産業の連携

地方創生と観光産業の連携

CJPF LAB

第2回CJPF LAB「スポーツ・クールジャパンの可能性」

CJPF LAB スポーツ・クールジャパンの可能性

10/10 (金)
JFA BLUE-ING!
(ブルーイング)



東京都文京区
後楽1丁目3-61
東京ドームシティ
クリスタルアベニュー 内

お申し込み



CJPF JFA

クールジャパン
官民連携プラットフォーム

<会場：PARK> 15:30~17:30 CJPF LAB 参加無料

中山 淳雄 氏 (エンタメ社会学者)

「スポーツクールジャパンの歴史と未来」

キャプテン翼からブルーロック、ハイキュー!!まで。世界で愛されるスポーツアニメの影響と経済インパクトをわかりやすく解説。

清野 優斗 氏 (日本サッカー協会 パートナー事業部)

「JFAのアジア連携、越境型スポーツマーケティングの取組について」

町田 浩樹 氏 (プロサッカー選手) ※オンラインゲスト登壇

「モーションキャプチャやテック連携を通じた「選手=IP」活用の未来について」

ファシリテーター

渡邊 賢一 氏 (CJPFディレクター／価値デザイナー)



PARK



DISCOVERY

<会場：DISCOVERY> 18:00~21:30 ライブビューイング



日本代表 vs パラグアイ代表

(キックオフ 19:20予定)

【参加方法】

任意参加・会費制

(要事前申込／¥4,500)

飲み放題・軽食のほか、クールジャパン×スポーツ
イベント賛同の事業会社様よりお寿司の提供あり。

CJPF LAB

セッション概要

第2回CJPF LABでは、「スポーツ×クールジャパン」をテーマに、アニメやIPによるファンダム経済圏と、Jリーグに代表されるスポーツファンダム経済との比較を通じて、それぞれが支持される層の特性や、今後の課題および可能性について整理が行われた。日本サッカー協会からは、未発表コンテンツとのコラボレーション企画に関する初出し情報がオフレコードで共有されたほか、漫画・アニメコンテンツとの積極的な連携事例や、これまでの海外展開の取組について紹介がなされた。これに対し、参加者からも今後の連携に向けた具体的な提案が寄せられた。

また、中山淳雄氏からは、スポーツ参加人口が減少する一方でスタジアム観戦単価は約2倍に伸びていること、さらに「ハイキュー!!」や「ブルーロック」といったアニメコンテンツが数十万人規模のファンを獲得し、Jリーグ全体の市場規模（約70億円）を上回る年間100億円超の経済効果を生み出している点が示された。加えて、グローバル市場においてスポーツライブコンテンツの価値が高まっていることや、アニメ・ゲーム等との掛け合わせによって、若年層や女性層、海外市場といった新たな領域で大きな成長が見込まれることが示唆された。

さらに、日本サッカー協会の清野氏からは、これまでの海外展開の実績が共有されるとともに、今後の国際展開においては、異業種との連携を一層強化していく必要性が示された。

アンケート結果

- ・ 現在手掛けているプロジェクトへアイデアを反映する。
- ・ 日本のスポーツ×クールジャパンコンテンツの海外展開での活用の検討。
- ・ 性差によるマーケティング手法の違いなどを意識。データ分析内容による考え方の変化。
- ・ 素晴らしい会場、素晴らしいコンテンツ。
- ・ 中山淳雄先生の日本コンテンツの、過去と今後の可能性。JFAでの海外イベントと、グッズ展開の可能性。
- ・ JFAの本気を感じた。

など、参加者自身の事業やプロジェクトへ反映・参考とするお声のほか、会場や登壇団体・登壇者との連携や好意的な回答のほか、会場参加者からは交流に対する高評価を得られた。

CJPF LAB

参加・申込数

	申込数	参加数	参加率
会場参加	44	31	70.5%
オンライン	34	30	88.2%
合計	78	61	78.2%

満足度調査結果 (5段階)

総合評価

4.6

現地参加

4.8

オンライン

4.3

CJPF LAB

各種発信

PR Times ニュースリリース

【先着順】第二回 CJPF LAB「スポーツ×クールジャパンの可能性」を開催

JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」を舞台に、アニメ・テクノロジー・スポーツの未来を語る

内閣府知的財産戦略推進事務局 2025年10月7日 15時20分

CJPF LAB スポーツ・クールジャパンの可能性

10/10 (金)
JFA BLUE-ING!
(ブルーイング)

blue-ing!
東京都文京区
後援：〒113-8501
東京ドームシティ
クリスタルパビリオン
お申し込み
QRコード

CJPF JFA

＜会場：PARK＞ 15:30～17:30 CJPF LAB 参加無料
中山 淳雄 氏 (エンタメ社会学者)
「スポーツ×クールジャパンの歴史と未来」
キャッチーなブルーロック、ハイキュー!!まで、世界で愛されるスポ
ーツアニメの影響力と経済インパクトをわかりやすく解説。
清野 優斗 氏 (日本サッカー協会 パートナー事業部)
「JFAのアジア連携、離隔型スポーツマーケティングの取
組について」
町田 浩樹 氏 (プロサッカー選手) ※オンラインゲスト登場
「モーションキャプチャやテック連携を通じた「選手×IP」
活用のお宝について」
ファシリテーター
渡邊 賢一 氏 (CJPFディレクター/価値デザイナー)

＜会場：DISCOVERY＞ 18:00～21:30 ライブビューイング
日本代表 vs パラグアイ代表
【キックオフ 19:20予定】

【参加方法】
任意参加・会費別
(事前申込金 ¥4,500)
※申込金・観覧料は、オンラインで決済可能。決済完了後、会場にて領収書を受け取る。決済完了後、会場にて領収書を受け取る。

内閣府知的財産戦略推進事務局では、新たな技術を活用し、地域資源の体験価値化・高付加価値化の取組拡大に向けて、2025年10月10日(金)、「スポーツ×クールジャパンの可能性」(主催：内閣府/運営：Vpon JAPAN株式会社)を開催することをお知らせいたします。

※お申し込みが定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

SNS

Vpon 【公式】
@vpon_japan

Ask Grok to explain this post

Show translation

第二回 CJPF LAB「スポーツ×クールジャパンの可能性」ご参加いただいた皆さまありがとうございました🌟😊
#CJPF #CJPF LAB #クールジャパン



5:56 PM · Oct 10, 2025 · 158 Views

CJPF LAB

第2回 CJPF LAB 開催概要

第2回

日時：10月10日（金）15:30-17:30

トピック：スポーツ・クールジャパン

登壇：

■ 中山 淳雄 氏（エンタメ社会学者）

「スポーツクールジャパンの歴史と未来」キャプテン翼からブルーロック、ハイキュー!!まで。世界で愛されるスポーツアニメの影響力と経済インパクトをわかりやすく解説。

■ 清野 優斗 氏（日本サッカー協会 パートナー事業部）

JFAのアジア連携、越境型スポーツマーケティングの取組を共有。

■ 町田 浩樹 氏（プロサッカー選手）

モーションキャプチャやテック連携を通じた「選手＝IP」活用の未来を語る。

※オンラインゲスト登壇

ファシリテーター：渡邊 賢一 氏（CJPFディレクター／価値デザイナー）

タイムスケジュール

時間	コンテンツ	登壇者	内容
5分	挨拶	内閣府	・挨拶 ・CJや知財計画について ・CJPF LABの位置づけ
5分	紹介	渡邊賢一	・登壇者紹介 ・Lab参加者へのメッセージ等
50分	講演	登壇者	・事例紹介 ・課題や可能性
10分	クロージング	渡邊賢一 事務局	・本日のまとめ ・事務局よりアナウンス・写真撮影
10分	休憩		
30分	交流	参加者全員	・登壇者も交えた交流時間



CJPF LAB

第2回 CJPF LAB 開催の様子



CJPF LAB

第3回CJPF LAB「IPとの連携による魅力向上の現在地とこれから」

ハイブリッド開催

第3回 CJPF LAB

「IPとの連携による魅力向上の現在地とこれから」



株式会社アニプレックス
執行役員常務
三宅 将典



TOPPAN株式会社
情報コミュニケーション事業本部 ビジネストランスフォー
メーション事業部 IPビジネス開発本部 本部長
追木 浩二



クールジャパン官民連携プラットフォーム
(CJPF) ディレクター
渡邊 賢一

2025
12/19
14:00-16:00

CJPF LAB

セッション概要

第3回CJPF LABでは、「IPとの連携による魅力向上の現在地とこれから」をテーマに、IPホルダーであるアニプレックスと、IPの利用を希望する事業者とIPホルダーをつなぐ支援も行っているTOPPANの取組や考え方を踏まえ、IP活用を検討する多様な事業者にとって、今後の連携や利活用の第一歩となる事例や示唆の共有が行われた。

アニプレックスの三宅氏からは、IPおよびその二次利用をめぐるこれまでの歴史や変遷、ならびに直近の動向が示された。その上で、IP活用に関する相談については、より気軽に連絡し、連携の可能性を模索していくことが重要であるとの考えが共有された。また、TOPPANの追木氏からは、HYPER JAPANをはじめとした海外での取組事例が紹介されるとともに、IPホルダーとIP利用を希望する事業者との間に立ち、通訳・翻訳的な役割を担う支援に加え、グッズ等の周辺製品の企画・制作まで含めた総合的な支援を行っている点が共有された。

これらの取組を通じて、IPの利活用による他業界との連携が、今後さらに広がっていく可能性が示された。

アンケート結果

- TOPPANさんの、「愛とこだわり」をコアとして持ちながら進める「つなげるビジネス」の態度に大いに信頼感を持ちました。アニプレックスさんの「IPホルダー側はどんなアイデアに対してもオープンに聞く耳を持っている」という言葉に勇気づけられました。
- 特に海外展開の知見はなかなか現地に行かないと得られないものなので、非常に参考になった。
- IPの専門家から迅速に学ぶことができました。また、私が貢献できそうな取り組みを行っている人々や、私の取り組みに貢献してくれそうな人々と出会うことができました。
- 会場からの質疑応答は非常に良いと思いました。
- 講師の方からご紹介いただいた政策や取組事例を通じて、中小規模の博物館も地方公共団体も、財源に限りがある中でどうしても縮小的な思考になりがちですが、「今、既に持っているものをどう磨き上げて価値を高めていくか」という観点からは、まだまだ可能性があるのではないか、という気づきがありました。

など、IP利用を検討したい事業者から様々な学びや、門戸が開かれていること、支援事業者の存在について多数の声をいただき、交流会でのコミュニケーションも含めて連携促進の可能性が広がる回となった。

CJPF LAB

参加・申込数

	申込数	参加数	参加率
会場参加	62	40	64.5%
オンライン	231	143	61.9%
合計	293	183	62.5%

満足度調査結果 (5段階)

総合評価

4.3

現地参加

4.5

オンライン

4.1

CJPF LAB

各種発信

PR Times ニュースリリース

【12/19開催！】第三回 CJPF LAB「IPとの連携による魅力向上の現在地とこれから」に関するお知らせ

開催場所が決定しました！！

内閣府知的財産戦略推進事務局 2025年12月12日 13時30分



CJPF LAB #3
IPとの連携による魅力向上の現在地とこれから



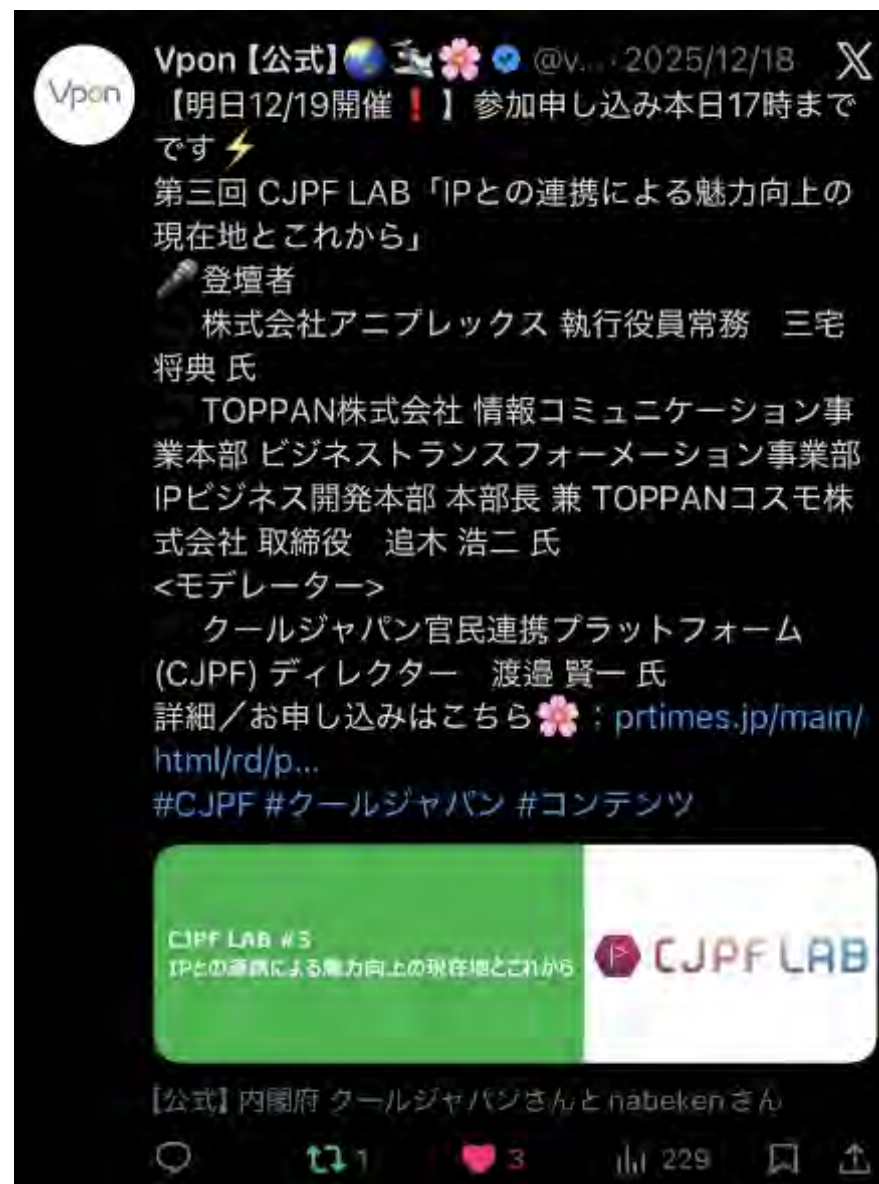
内閣府知的財産戦略推進事務局では、日本発のコンテンツと他産業の連携による価値向上の取組拡大に向けて、2025年12月19日(金)に「IPとの連携による魅力向上の現在地とこれから」(主催：内閣府/運営：Vpon JAPAN株式会社)を開催いたします。

このたび、対面会場が「ARCH 虎ノ門ヒルズインキュベーションセンター マグネットルーム」に決定いたしましたので、お知らせいたします。

申し込みはこちら

【開催概要】

SNS



CJPF LAB

第3回 CJPF LAB 開催概要

第3回

「IPとの連携による魅力向上の現在地とこれから」

【日時】

12月19日（金）14:00～16:00

【開催方法】

対面／オンラインのハイブリッド形式

【開催会場（対面）】

ARCH 虎ノ門ヒルズインキュベーションセンター マグネットルーム

（〒105-6404 東京都港区虎ノ門 1 丁目 17 番 1 号 虎ノ門ヒルズ
ビジネスタワー 4 階）

登壇：

■ 株式会社アニプレックス 執行役員常務 三宅 将典 氏

■ TOPPAN株式会社 情報コミュニケーション事業本部 ビジネストランス
フォーメーション事業部 IPビジネス開発本部 本部長 兼 TOPPANコスモ
株式会社 取締役 追木 浩二 氏

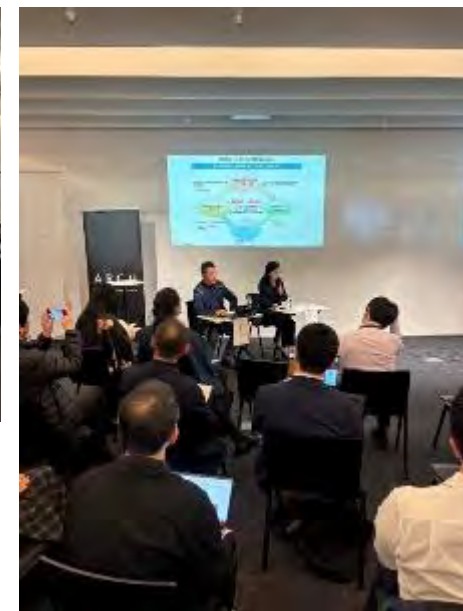
ファシリテーター：渡邊 賢一 氏（CJPFディレクター／価値デザイナー）

タイムスケジュール

時間	コンテンツ	登壇者	内容
5分	挨拶	内閣府	・挨拶 ・CJや知財計画について ・CJPF LABの位置づけ
5分	紹介	渡邊賢一	・登壇者紹介 ・Lab参加者へのメッセージ等
50分	講演	登壇者	・事例紹介 ・課題や可能性
10分	クロージング	渡邊賢一 事務局	・本日のまとめ ・事務局よりアナウンス・写真撮影
10分	休憩		
30分	交流	参加者全員	・登壇者も交えた交流時間

CJPF LAB

開催の様子



CJPF LAB

第4回CJPF LAB「ファッション・ビューティの海外展開の今」

ファッション・ビューティの海外展開の今



DAMDAM
フィリップ・テリアン 氏



BeautyTech.jp 編集長
矢野 貴久子 氏



CFCL
松浦 直彦 氏



編集者／ファッション・クリエイティブ・ディレクター
軍地 彩弓 氏

- 【日時】 2月12日（木）15:00～17:00
【開催】 対面／オンラインのハイブリッド形式
【会場】 「note place」
東京都千代田区麹町6丁目6 -2 番町麹町ビルディング 7F
<https://place.lp-note.com/#access>
【参加】 参加費 無料（要事前申込）
※ 申込期限：2月10日 18:00
【主催】 内閣府知的財産戦略推進事務局
クールジャパン官民連携プラットフォーム



モデレーター

CJPFディレクター
価値デザイナー／ナラティブリスト

渡邊賢一 氏



CJPF LAB

セッション概要

第4回CJPF LABでは、「ファッション・ビューティの海外展開の今」をテーマに、ビューティ業界およびファッション業界における海外展開の現状や課題、ならびに各社の具体的な取組について共有が行われた。DAMDAMのフィリップ氏からは、日本的なデザインや品質、自然由来原料、歴史といった要素は海外市場において高く評価されており、こうしたポイントを海外目線で整理した情報発信を行うことで、ブランドの魅力がより効果的に伝わるとの考えが示された。

一方で、海外イベントにおいて日本企業の出展や登壇は依然として少なく、その結果として日本ブランドが一括して韓国エリアに含まれてしまうといった現状も共有された。また、CFCLの松浦氏からは、ファッション業界においては経営全体を見据えた戦略設計が極めて重要であり、特に海外展開においては、外国人材の活用や、日本人であっても英語を十分に使いこなせる環境の整備など、人材面での取組の重要性が示された。

さらに、エグゼクティブディレクターの矢野氏および軍地氏からは、ビューティ・ファッション業界の海外展開において、両社の取組から得られる示唆は多く、本LABが今後の業界の取組を後押しする場となることへの期待が示された。

アンケート結果

- 日本の製品やサービスを高い価格で世界の富裕層に訴求するブランドを開発したいと考えています。協業が見込めるパートナーと出会いたい
- アパレル企業などは横のつながりが欲しい。起業支援的な取り組み企業や、海外ビジネスの勉強ができる場が欲しい
- ファンド出身の方の高度な資本政策、人事制度、プロモーション戦略、チャネル戦略などのご知見を活かし、事業全体を見渡して戦略設計と実行ができる人材の素晴らしさと必要性を実感した。
- 海外に向けて進出していくときに大切なこと、見落としがちな視点、押し付けず海外で生活している方の生活に浸透させていく意識など非常に勉強になりました。
- 特にCFCLの松浦さんのお話はどれも参考になり、チームにて今後の方針を相談したいものばかりでした。
など、海外展開におけるアパレルやコスメとの協業の探索、登壇2社の共有に対しての学びの声が多数寄せられました。

CJPF LAB

参加・申込数

	申込数	参加数	参加率
会場参加	37	21	56.8%
オンライン	49	32	65.3%
合計	86	53	61.6%

満足度調査結果 (5段階)

総合評価

4.3

現地参加

4.9

オンライン

3.5

CJPF LAB

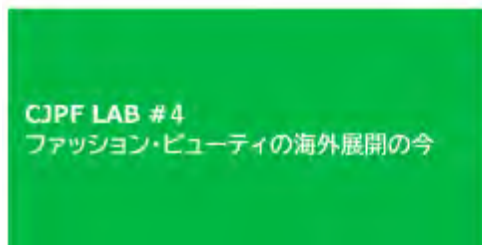
各種発信

PR Times ニュースリリース

【2/12 開催】ファッション・ビューティの海外展開の今：世界とつながるクールジャパン

グローバルでファンを抱えるDAMDAM社とCFCL社が登場——日本発ブランドが描く“共感と共創”のこれから

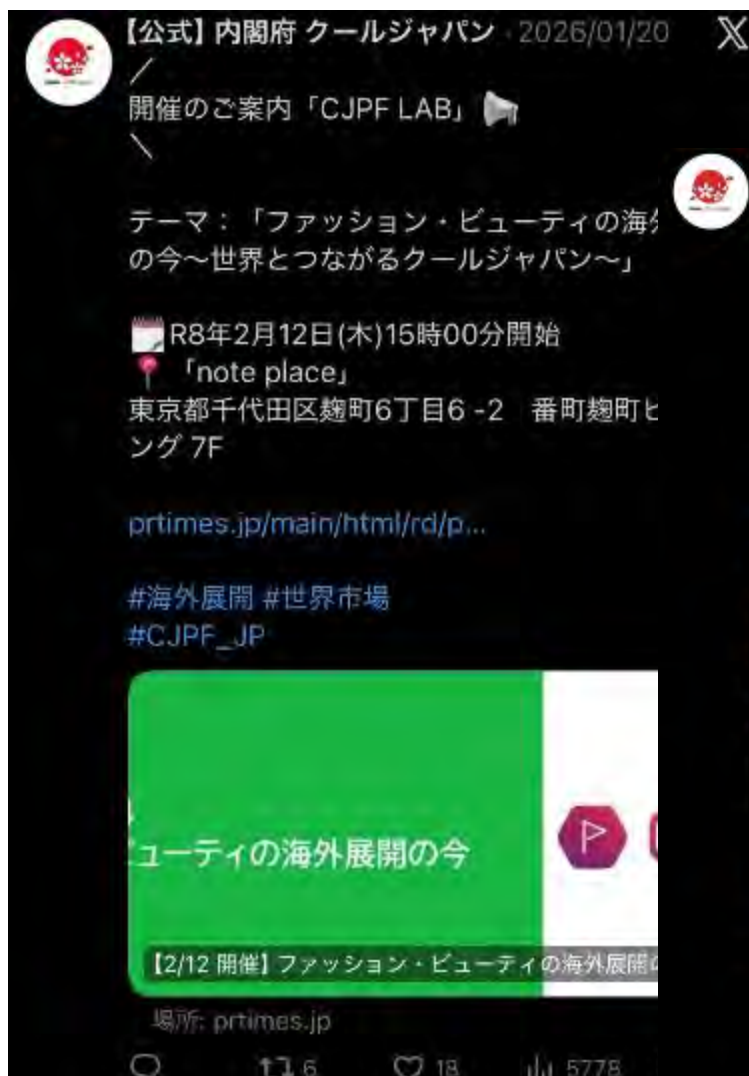
内閣府知的財産戦略推進事務局 2026年1月19日 15時00分



内閣府知的財産戦略推進事務局では、クールジャパン関連産業の海外展開の拡大に向けて、2026年2月12日(木)、「ファッション・ビューティの海外展開の今」(主催：内閣府/協賛：Vpon JAPAN株式会社)を開催することをお知らせいたします。

【開催概要】

SNS



CJPF LAB

第4回 CJPF LAB 開催概要

第4回

「ファッション・ビューティの海外展開の今」

【日時】

2月12日（木）15:00～17:00

【開催方法】

対面／オンラインのハイブリッド形式

【開催会場（対面）】

「note place」

東京都千代田区麹町6丁目6 -2 番町麹町ビルディング 7F

登壇：

■ ダムダム (DAMDAM) ファウンダー

フィリップ・テリアン 氏

■ 株式会社アイスタイル BeautyTech.jp 編集長

矢野 貴久子 氏

■ 株式会社CFCL 代表取締役副社長 COO

松浦 直彦 氏

■ 株式会社gumi-gumi 代表 編集者／ファッション・クリエイティブ・

ディレクター

軍地 彩弓 氏

ファシリテーター：渡邊 賢一 氏（CJPFディレクター／価値デザイナー）

タイムスケジュール

時間	コンテンツ	登壇者	内容
5分	挨拶	内閣府	・挨拶 ・CJや知財計画について ・CJPF LABの位置づけ
5分	紹介	渡邊賢一	・登壇者紹介 ・Lab参加者へのメッセージ等
50分	講演	登壇者	・事例紹介 ・課題や可能性
10分	クロージング	渡邊賢一 事務局	・本日のまとめ ・事務局よりアナウンス・写真撮影
10分	休憩		
30分	交流	参加者全員	・登壇者も交えた交流時間

CJPF LAB

第4回 CJPF LAB 開催の様子



CJPF LAB

第5回CJPF LAB「共に育てるクールジャパン：外国人材が見た“伝えたい日本”」

第5回CJPF LAB

共に育てる
クールジャパン
外国人材が見た
“伝えたい日本”

Sakiko Yamada
Adam Fulford
Robert D. Eldridge
Moderated by
Kenichi Watanabe

February 19, 2026

4:00pm – 6:40pm

虎ノ門アルセアタワーコンファレンス 3階

Room B



CJPF LAB

セッション概要

第5回CJPF LABでは、「共に育てるクールジャパン：外国人材が見た“伝えたい日本”」をテーマに、外国人の視点や海外ビジネスの現場から見た日本の魅力、ならびに課題や今後のチャンスについて共有が行われた。アダム氏およびロバート氏からは、日本の民族性や精神性、感性、ならびにそれらに基づく文化や歴史が非常に魅力的であるとの認識が示された。

一方で、欧米的な仕組みを取り入れながら急速に成長してきた近代化の過程において、失われつつある文化や価値観があることについても、懸念として言及がなされた。また、山田氏からは、日本に古くから根付く「伝統と革新」という考え方において、今後は「海外需要を獲得するための革新」がより重要になってきていることが示された。加えて、クールジャパンへの国際的な評価が高まっている今こそ、奥ゆかしさといった美德にとどまらず、相手が求めている情報を的確に理解し、分かりやすく届けていくためのマーケティング強化が必要であるとの指摘がなされた。

これら4名によるディスカッションを通じて、日本の魅力を海外に向けて正しく発信することが、より深い理解の獲得につながり、さらなる日本ファンの創出につながる可能性が示唆された。

アンケート結果

- 外国人から見た日本が、日本人から見た日本とは異なっている事が本日だけでもわかったが、もっと深掘りすれば出てくるはずなので、その点は別途調査していきたい。
- 1、社会課題と魅力「体験貢献してもらい仲間になる」と「相手を想う文化」2、文化を継承するためのDX活用、その国の人の文化を守るのが安全保障3、海外が感じる魅力 日本の思想や価値観、あつという間に感じるほど面白かったです。
- みなさんのご意見に大変共感しました。関心を持ってくださっている海外の方々と協力して、世界の方々と、その豊かさを享受できたら、社会の課題解決につながったり、調和の考え方が広まるきっかけになるかもしれません。
- アダムさん、ロバートさんの日本へのあたたかい眼差しに感動し、とてもうれしく思いました。山田さんの「伝統は革新するべき」にもとても共感しました。良い会を開催くださってありがとうございました！

など、参加者自身の事業やプロジェクトへ反映・参考とするお声のほか、会場や登壇団体・登壇者との連携や好意的な回答のほか、会場参加者からは交流に対する高評価を得られた。

CJPF LAB

参加・申込数

	申込数	参加数	参加率
会場参加	32	20	62.5%
オンライン	68	34	50.0%
合計	100	54	54.0%

満足度調査結果 (5段階)

総合評価

4.5

現地参加

4.6

オンライン

4.4

CJPF LAB

各種発信

PR Times ニュースリリース

【2月19日開催CJPF LAB会場決定！】第5回CJPF LAB「共に育てるクールジャパン：外国人材が見た“伝えたい日本”」

～伝える・つなぐ・動かす人としての外国人材～

内閣府知的財産戦略推進事務局 2026年2月16日 10時58分



内閣府知的財産戦略推進事務局では、クールジャパン関連産業の海外展開の拡大に向けて、2026年2月19日(木)、「共に育てるクールジャパン：外国人材が見た“伝えたい日本”」（主催：内閣府/運営：Vpon JAPAN株式会社）を虎ノ門アルセアタワーコンファレンスにて開催することをお知らせいたします。※オンラインとのハイブリッド開催です。

【開催概要】

SNS



CJPF LAB

第5回 CJPF LAB 開催概要

第5回

「共に育てるクールジャパン：外国人材が見た“伝えたい日本”」

【日時】

2月19日（木）16:00～18:40

【開催方法】

対面／オンラインのハイブリッド形式

【開催会場（対面）】

虎ノ門アルセアタワーコンファレンス3階 Room B

ご登壇者：

- エルドリッチ研究所・代表 ロバート・D・エルドリッチ 氏
- 有限会社フルフォードエンタープライズ CEO アダム・フルフォード 氏
- 国際ガストロノミー学会代表／Sports Doctors Networkアジア代表 山田 早輝子 氏

ファシリテーター：渡邊 賢一 氏（CJPFディレクター／価値デザイナー）

タイムスケジュール

時間	コンテンツ	登壇者	内容
5分	挨拶	内閣府	・挨拶 ・CJや知財計画について ・CJPF LABの位置づけ
5分	紹介	渡邊賢一	・登壇者紹介 ・Lab参加者へのメッセージ等
50分	講演	登壇者	・事例紹介 ・課題や可能性
10分	クロージング	渡邊賢一 事務局	・本日のまとめ ・事務局よりアナウンス・写真撮影
10分	休憩		
30分	交流	参加者全員	・登壇者も交えた交流時間

CJPF LAB

第5回 CJPF LAB 開催の様子



CJPF LAB

第6回CJPF LAB「金融・地域創生×クールジャパン」

第6回CJPF LAB

金融・地域創生 × クールジャパン

| 2026年3月3日 | 15:00

REGISTER NOW

東京都渋谷区桜丘町20-4 ネクシーズ ス
クエアビル 3階 (受付: 1F)



海外需要開拓支援機構
専務執行役員
川村 尚永



SBIネオメディアホールディン
グス 代表取締役副会長
近藤 太香巳



城北信用金庫 理事長
大前 孝太郎



CJPF ディレクター
渡邊 賢一

CJPF LAB

セッション概要

第6回CJPF LABでは、「金融・地域創生×クールジャパン」をテーマに、異なる観点から金融事業を手掛ける3社を迎え、それぞれの立場から捉えたクールジャパンに関する取組や事例について共有が行われた。城北信用金庫の大前氏からは、資金供給者としての役割にとどまらず、酒造りや花火イベント、ラジオ番組の企画・運営など、地域の活性化や自走を目指した取組について紹介がなされた。あわせて、地域に根差した金融機関だからこそ可能な支援の在り方についての考え方が示された。

また、海外需要開拓支援機構の川村氏からは、海外需要獲得に向けたハブ機能を担うプラットフォームやサプライチェーンへの直接投資による支援、ならびにビジネスマッチングを通じた投資先企業の支援策について共有が行われた。加えて、海外需要の開拓に資するECや販売プラットフォーム等の事例が紹介された。さらに、SBIネオメディアホールディングスの近藤氏からは、地域創生に資する花火や各種イベント運営、コンテンツ関連事業の取組に加え、米国発の総合エンターテインメント施設「Sphere」の東京誘致に挑戦する構想が初めて共有された。

これらの取組は、日本の多様なコンテンツの発信力強化に資するものとして示された。

アンケート結果

- 金融×エンターテインメントに興味があり、今後、こういった展開を構想されているのかに興味があり、また、その軸にインバウンドビジネスが絡む余地があるのかが気になった。
- クリエイター、制作の立場で勉強してこなかった金融機関との関わりについて非常に勉強になりました
- 前回に続き、知らなかった世界のお話を、お聞きできたと思います。今回は、壮大な、プロジェクトのお話をお聞きして、圧倒されました。
- 金融機関とクリエイティブとのこれからの新しい関係性を築いていきたい
- 日本での制作者たちがしっかりIP権利を主張できるよう、金融機関やファンド関係者と連携していきたい
など、金融機関との関わりは新鮮であったようで、新たな気付きや連携の可能性を拡げるきっかけとなる回の開催となった。

CJPF LAB

参加・申込数

	申込数	参加数	参加率
会場参加	24	20	83.3%
オンライン	49	29	59.2%
合計	73	49	67.1%

満足度調査結果 (5段階)

総合評価

4.5

現地参加

5.0

オンライン

4.3

CJPF LAB

各種発信

PR Times ニュースリリース

【3月3日開催決定！】第6回CJPF LAB「金融・地域創生×クールジャパン」

内閣府知的財産戦略推進事務局 2026年2月20日 10時00分

第6回CJPF LAB

金融・地域創生
×
クールジャパン

2026年3月3日(火) 15:00

REGISTER NOW

東京都渋谷区桜丘町20-4
ネクサースクエアビル3階(登壇:1F)



内閣府知的財産戦略推進事務局では、クールジャパン関連産業の海外展開の拡大に向けて、2026年3月3日(火)、「金融・地域創生×クールジャパン」(主催:内閣府/運営:Vpon JAPAN株式会社)をにて開催することをお知らせいたします。※オンラインとのハイブリッド開催です。

【開催概要】

SNS



CJPF LAB

第6回 CJPF LAB 開催概要

第6回

「金融・地域創生×クールジャパン」

【日時】

3月3日（火）15:00～17:40

【開催方法】

対面／オンラインのハイブリッド形式

【開催会場（対面）】

東京都渋谷区桜丘町20-4 ネクシーズ スクエアビル 3階（受付：1F）

ご登壇者：

■ 城北信用金庫 理事長 大前 孝太郎 氏

■ 株式会社海外需要開拓支援機構 専務執行役員 川村 尚永 氏

■ SBIネオメディアホールディングス 代表取締役副会長
NEXYZ.Group 代表取締役社長 兼 グループ代表 近藤 太香
巳（こんどう たかみ）氏

ファシリテーター：渡邊 賢一 氏（CJPFディレクター／価値デザイナー）

タイムスケジュール

時間	コンテンツ	登壇者	内容
5分	挨拶	内閣府	・挨拶 ・CJや知財計画について ・CJPF LABの位置づけ
5分	紹介	渡邊賢一	・登壇者紹介 ・Lab参加者へのメッセージ等
50分	講演	登壇者	・事例紹介 ・課題や可能性
10分	クロージング	渡邊賢一 事務局	・本日のまとめ ・事務局よりアナウンス・写真撮影
10分	休憩		
30分	交流	参加者全員	・登壇者も交えた交流時間

CJPF LAB

第6回 CJPF LAB 開催の様子



(2) CJPF 事業における調査、実装、運営・評価に関する業務

- ① 2033 年に向け内閣府が設定したKGI/KPI に関する実証調査
- ② CJPF 活性化調査
- ③ CJPF モデル事例等各種プロジェクトの運営と評価項目の実装
- ④ 外国人材の活躍調査
- ⑤ その他CJPF 事業の発信・運営

モデル事例調査の選定基準と選定先

令和7年度のモデル事例調査の方針＝見る人（ターゲット）を導きたい方向性

特定業界・トピック毎に、海外での認知、好感度、ファンなどの獲得、需要開拓に成功している事業を調査し、「第三者がみて参考に出来る」や、「第一歩が踏み出せる」ように、“具体的アクションに繋がる”ものをアウトプットする
自走を促し、エコシステムとして機能するための参考となる情報を提供する

選定要件

✓ 特定業界・トピック ※最小5事例

- ✓ 地域・地方
- ✓ IPやコンテンツ
- ✓ ファッション
- ✓ 化粧品
- ✓ 食
- ✓ テック・デジタル（NFT等）

✓ 選定指標に見合っているか？

- ✓ 海外での認知やファン獲得のインパクト
- ✓ 海外売上規模・比率
- ✓ 業界業種、過去事例含めた大きな偏りや類似事例ばかりにならないか

事例	地域・地方	IPコンテンツ	ファッション	化粧品	テック	特記事項
愛媛県	○					外国人宿泊日数倍増
バンダイ		○				IPと海外データの活用
株式会社スズサン(suzusan)	○		○			欧州展開、有松鳴海絞りの伝統
株式会社シロ(SHIRO)	○			○		独自の世界観とマーケティング、地方創生
株式会社ICHIGO	○				○	北米以外にも展開、大型買収により実店舗も獲得

令和7年度モデル事例調査対象事業者

分野		食	案件名	越境EC×地方創生
選定根拠サマリー		- 地適なマーケティングと、商品だけでなくその地域を紹介する工夫 - 自治体と連携して地域の詰め合わせ商品を企画し、老舗和菓子の販路を生み出す - 実店舗も取得し、よりユーザーとの距離も近くなることで新たな取り組みにも期待		
担い手	名称	株式会社ICHIGO	エリア	東京都港区
	基本情報	- 設立：2015年8月 - 事業内容：越境EC事業, ゲーム事業, フード&ビバレッジ事業 - 従業員数：120名		
外需獲得 定量・定性情報		- 米国やイギリスなど海外187カ国 2015年創業から6年で売上は40億円に到達 - 販売数は累計350万個、顧客数は約560万人を突破(2024年9月時点) 「Sakuraco」が、「日本サブスクリプションビジネス大賞2023」にてシルバー賞を受賞		
モデル事例としての参考要素		- インバウンド消費が激減して困っている地方老舗和菓子メーカーの新たな販路 - アンケートで商品に対するフィードバックを吸い上げ米国展開を目指す事業者を支援 - 地域の観光スポットなどの情報が書かれた冊子を同封することで、インバウンドまで見据えた魅力発信		



令和7年度モデル事例調査対象事業者

分野		ファッション	案件名	伝統産業×ファッション
選定根拠サマリー		- 時代の流れで需要が低下した日本の伝統工芸技術を海外からの視点でみられたことで価値の再発見がされ、外需獲得に繋がるブランドに昇華 - 海外売上8割以上 - 地域創生のきっかけにもなり、技術の継承・雇用の創出・若手育成にも直結		
担い手	名称	株式会社スズサン (suzusan) Suzusan GmbH & CO. KG	エリア	ドイツ デュッセルドルフ 愛知県名古屋市
	基本情報	- 設立：2008年（デュッセルドルフにて設立） - 事業内容：伝統技法 有松鳴海絞り を用いたファッション・インテリアブランド - 従業員数：27名（ドイツ法人7名、日本法人20名）		
外需獲得 定量・定性情報		30カ国80都市120店舗に販路を保有 - 欧州ハイエンドのトップセレクトショップにも並ぶ - DIORなど多数のラグジュアリーブランドからも依頼をうけてテキスタイル提供 - 売上の8割が海外		
モデル事例としての参考要素		- 伝統工芸の価値整理と、再解釈による外需獲得モデル - 高齢化が進み、10年15年で途絶えるとされていた技術と産業の回復に繋がり、若い世代が就職し、技術の継承がなされ、地域においても外国人誘客という新たな市場を獲得するきっかけとなっている - suzusanがこれまで得てきた販路や、失敗の経験を活かして、同じように海外展開にチャレンジしたい事業者と連携するプロジェクトを推進中		



令和7年度モデル事例調査対象事業者

分野		ビューティ	案件名	独自のマーケティング×地域創生
選定根拠サマリー		- 広告に頼らない独自のブランディング・マーケティングスタイル - 欧州への早期海外出店 - 地域創生		
担い手	名称	株式会社シロ (SHIRO)	エリア	北海道砂川市 東京都港区
	基本情報	- 設立：1989年 - 事業内容：化粧品メーカー - 従業員数：639名		
外需獲得 定量・定性情報		- 海外売上比率はまだ約1.5%であるが、2029年頃までに19.5%へ引き上げ 2025年4月オープン of 韓国・聖水（ソンス）店では2日間で約2,500人が来店し、約1,000万円の売上、12月には韓国2号店を展開 2026年は韓国で5-6店舗、香港初出店、台湾2店舗目をオープン予定で、海外の出店数が国内を上回る見通し		
モデル事例としての参考要素		- 自社製品の磨き込みの徹底と、その商品の素材や製法へのこだわりからユーザーに世界観・ブランドを感じてもらうというアプローチ - デジタル広告、インフルエンサー広告などに一切予算を使わないマーケティング - 海外での成功や失敗における知見と今後の挑戦		



CASE STUDY No.

北海道砂川市発SHIRO、地域共創コスメが描く世界進出と世の中をしあわせにする循環づくり

2025.04.08 更新

福永 敬弘さん
株式会社シロ 代表取締役社長
<https://shiro-shiro.jp/>

SHIROは、日本各地の自然素材を活かしたもののづくりで、国内外のファンを魅了し続けるコスメティックブランドです。2009年に北海道砂川市を拠点に「ローレル」として創業を上げ、2015年に「shiro」、2019年に「SHIRO」へとグローバルを意識してブランド名を変更。創業主・今井浩恵さんの化粧品づくりの情熱と、リクルート出身で2014年に入社した代表取締役社長・福永敬弘さんのマネジメントという絶妙の同軸でイギリス、台湾、韓国への展開を経て、今、返りが見えるのは、ブランドの本質を伝える地域共創とローカライズによるグローバル化です。

令和7年度モデル事例調査対象事業者

分野	地域	案件名	地域全体での活性化
選定根拠 サマリー	- 訪日外国人宿泊数の伸びが2倍以上 - 官民、地域一丸となつての施策実行 - せとうち広域での取組		

担 い 手	名称	愛媛県 各事業者	エリア	愛媛県松山市、大洲市、今治市
	基本情報	一般社団法人キタ・マネジメント ・ 設立：2018年 ・ 事業内容：臥龍山荘、大洲城などの7施設指定管理、古民家改修・運営、観光・物産振興宝荘グループ ・ 設立：1953年 ・ 事業内容：松山市道後地区で3ホテルを運営 一般社団法人しまなみジャパン ・ 設立：2017年 ・ 事業内容：レンタサイクル事業、PR、インバウンド対応 株式会社わっか（WAKKA） ・ 設立：2018年 ・ 事業内容：宿泊、飲食、旅客運送業等		
外需獲得 定量・定性情報		- 令和6年度インバウンド宿泊数2,300名超、昨対比2倍以上（キタ・マネジメント） - 外国人ニーズに応えるためホテル毎の特長を変更してリニューアル実施（宝荘グループ） - レンタサイクルは年間4万人以上の外国人利用で1/3を占める（しまなみジャパン） - 海外比率3割以上で海外メディアにも取り上げられる（わっか）		
モデル事例としての参考要素		- 自治体、地銀、地域住民、事業スキームが組み合わさった地域創生モデル - 分散型ホテルの事例 - 温泉街の地域創生の一致団結事例 - 外国人高付加価値サービス提供による利用者のSNS発信PR効果		

令和7年度モデル事例調査対象事業者

分野		IP・コンテンツ	案件名	IP・コンテンツ×海外展開
選定根拠 サマリー		- 実践的データ活用の知見 - IPを軸とした海外展開・他業種連携 - コンテンツ業界の人材像について		
担 い 手	名称	バンダイナムコグループ	エリア	東京都
	基本情報	- 設立：1950年 - 事業内容：IPを活用したゲーム・玩具・カードゲーム等の企画・製造・販売 - 従業員数：903名（単体）、11,345名（バンダイナムコグループ連結）		
外需獲得 定量・定性情報		- グループ全体で約28%の海外売上比率、ガンダム等一部商品は約50%、2028年目標で海外売上比率50% - 海外直営店（クロスストア）を現在3店舗から2030年までに約5倍に増やす計画 - 欧米モバイルゲーム展開、海外子会社でのIPグッズ販売、ソニーグループや東宝とのグローバル展開のための業務提携		
モデル事例としての 参考要素		- クリエイターなど、データに距離をおきがちな業界でのデータ活用モデル - 海外目線をデータからも解き明かすことの有効性の具体事例 - 海外と日本のファンを別のものとするのではなく同じ顧客として捉える視点 - 文化や歴史背景も様々で、人気のコンテンツやキャラクターも日本と異なる理由は現在のデータだけでは解き明かせず、幼少期の体験が影響していることの発見 - IPコンテンツとの連携可能性、門戸が広いことの共有		



CASE STUDY No. 1
世界中のファンと歩むグローバル展開の実践～バンダイナムコグループにみるデータ活用～

2024.04.03現在



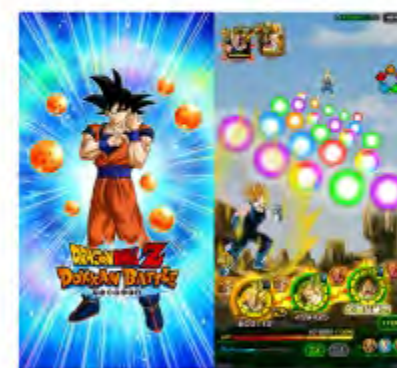
平塚 晃司さん

株式会社バンダイナムコグループ
取締役 常務執行役員 経営企画部長

日本企業コンテンツの海外展開が広がる中で、いかに活用されているかが「世界のファンにどう向き合うか」です。アニメやゲーム、キャラクター商品はすでに世界中で親しまれていますが、国や地域によって受け止められ方は大きく異なることがあります。日本で成功したやり方をそのまま海外に適用するわけではありませんが、では、海外市場をどう捉え、ファンとの関係をどう築いていけばよいのでしょうか。日本を代表するIPコンテンツをグローバルに展開企業であるバンダイナムコグループの株式会社バンダイ執行役員常務部長は、データ活用、海外展開、ファンと人間といった観点でお話をうかがいました。

たものではありません。
「試行錯誤」でした。
「ファン向けゲーム」

「ドラゴンボールZ ドッカンバトル」です。



▲ドラゴンボールZ ドッカンバトル
おバード・スタジオ/開発・販売アニメーション
©Bandai Namco Entertainment Inc.

次年度CJPF LAB、モデル事例調査、次年度新たな取組について

CJPF LAB・モデル事例調査のさらなる発展

CJPF LABでは、全6回合計821名が申込、487名が参加、アンケート回答率は平均30%を超えて、満足度平均4.4（5段階）を超える高い満足度を得られた。CJPFと親和性のある他イベントとの連携によって参加促進に取り組むことのほか、事業者の実活動にプラスのインパクトをもたらせるよう、出口の取組についても企画検討が必要。

モデル事例調査では、年度後半に取材が集中したことから記事掲載まで時間を要してしまった。モデル事例として取材する候補探索と、ライティングに対する打ち手が必要である。また、モデル事例調査の取材は先進的实践者と対話が可能な非常に有益かつ稀有な場でもあるため、構成員にも同行機会を提供することで活性化に繋がる可能性がある。

	期待効果	取組案
CJPF LAB	参加者増加	観光庁イベントや民間イベントとのタイアップ開催 農水省GFP、経産省、三井不動産POTLUCK等との連携
	具体成果の向上・促進	IPをハブとしたIP×他業界のシリーズ開催 CJPF契機での事業連携や新たな取組の共有の場の提供設計 連携のためのパートナー探索にもなるマッチングイベント設計
	運営効率化	会場固定とするための連携、虎ノ門・渋谷の事業者連携
	構成員活性化	地域の事業者登壇や構成員からの自薦や他薦を促進
モデル事例調査	構成員活性化	調査のうち1回程構成員限定少数参加型取材を企画
	先進的取組の発見	執行部やCJPとの連携や他薦による候補先選定
	記事掲載速度向上	ライター・カメラマンの固定確保
共通事項		事業開始直後に執行部と企画案の検討会議を実施

次年度CJPF LAB、モデル事例調査の選定について

令和8年度に向けた選定方法の整理

下記を考慮して企画検討をおこなう

- ・ 構想委員会、ワーキンググループ、各委員会などで課題・論点として上がった業界や領域
- ・ 今年度（令和7年度）アンケート結果
- ・ 共同会長、エグゼクティブディレクター、ディレクターといった各専門家からのコメント
- ・ 注目度の高いトピックや先端技術等
- ・ 業界や地域のバランスを考慮

令和8年度のスケジュール案

CJPF LAB

- ✓ 6月 : 第1回
- ✓ 7月 : -
- ✓ 8月 : 第2回
- ✓ 9月 : 第3回
- ✓ 10月 : 第4回
- ✓ 11月 : 第5回
- ✓ 12月 : -
- ✓ 1月 : 第6回
- ✓ 2月 : -

モデル事例調査

- ✓ 6月 : ※1本目取材
- ✓ 7月 : 1本目 ※2本目取材
- ✓ 8月 : ※3本目取材
- ✓ 9月 : 2本目
- ✓ 10月 : 3本目 ※4本目取材
- ✓ 11月 : - ※5本目取材
- ✓ 12月 : 4本目
- ✓ 1月 : 5本目
- ✓ 2月 : -